清さ水(長嶺折堂)を稱スル ルカラ此印度ノ畫ニ在ッテ最モ宜シイト思フ學術名ヲアカリフへ、ヒスピダト云ヒ又アカリフへ、 供。 (大瀬) 下 方二描 ケ N 赤色美麗 ノ紐狀花穂ヲ有スル 植 物 72 かとうだい 科 7 種 デ印 度 サン 土產品 デ リー デ

樅狀ノ樹ハ落葉松敷然レバ其葉ヲ一層細線狀ニ描々必要ガアル又松毬繋

樣二見工

テ面白クナイ

(完)

Æ ア

1

樣

=

下向

〇羊齒類ノ一大群をしだ屬

著テハ惡イ此畫ノ通リデハ餘リ要領ヲ得ナイはりもみノ

‡ 兒 玉

理

其屬徴ト分類法ノーツトヲ述ベョウ 凡千三百、其分布モ世界的デアル、 をしだ屬トハをしだ、べにしだ等ヲ含ムモノデ今日デハ普通 本邦ニハ樺太ヨリ臺灣ニ至ルマデ普ク之レヲ産シ約九十種程 Dryopteris ト呼バレラ居ル一大屬 モアル、 デアッテ種 左 類

ズ、葉形並ニ其分裂ノ狀 ナシ脈背ニアッテ葉縁ド中肋トノ中間ニ位スルヲ普通トス包膜ヲ有スル者ト之レヲ缺ケル者トアリ包膜 心臟形乃至圓形 をした屬ハのさしのぶ科(Polypodiaceae)中ノをしだ族(Aspidiene)ニ屬シ囊堆ハ圓形、橢圓形或 Ξ シテ缺 ハ種々アリテー定セズ、葉脈ハ全ク游離スルカ或 刻アリ缺刻ノ基部ヲ以ラ囊堆床上

著生み、

根莖へ直立或ハ横走シ葉柄

ŀ

關節 腎臟

セ

線形ヲ

ハ隣レル脈群

ノ相對向セ

ル最下ノー

【分類】 對乃至全對ガ互ニ相 本邦 産スル (會シ會點ハ更ニ連結セラ モノヲ 次ノ如クニ分 ッ jν ` = ŀ アリ があ ノ如キ ・脈ヲ Nervatio Goniopteridis ト云フ)

嚢堆ニ包膜ヲ有スル (I)をしだ區 [Sect. I. Eudryopteris]

脈ハ全ク游離ス(圖中ノ1つをしだ)

半歯類ノ一大群をしだ歴

(192)

ほしだ區 [Sect. II. Cyclosorus] 脈ハ結合シ Nervatio Goniopteridis ヲナス(圖中ノ2、ほしだ

羊歯類ノ一大群をしだ屬

IIみやまわらび區 [Sect. III. Phegopteris】コレヲ特立ノ一屬トナセル人モアリ

六 ·IE

> 薬脈全ク游離セルモノ イみやまわらび亞區 [a. Euphegopteris] 嚢堆ハ圓形ナリ(圖中ノ3、みぞしだもどき)

②葉脈連結スルモ ロみぞしだ亞區 〔β. Leptogramma〕嚢堆ハ線形ナリ(圖中ノ4、みぞしだ)

しだ區ノ如キ嚢堆ヲ有スルモノ〔Stegnogramma〕アリ共ニ本邦ニ産セズ 此他ニ脈ハほしだ區 ノ如クニシラ嚢堆裸出セルモノ [Goniopteris]、又脈 ハ前者ノ如クニシテみぞ

ナリ(圖中ノ5、かうもりしだ)

ハかうもりしだ亞區 [7: Meniscium] 囊堆ハ脈ノ連結セル所ニアリコレヨリ脈上ニ沿フ ラ稍 長形

上述ノ分類法ハ主トシテ葉脈、 ノ方法ハアルケレドモ何レモ要點ヲ脈、囊堆ニ取ッタモノデ不自然ナルヲ発レナイ然ルニ ハ毛茸、 鱗片ノ有無及ビ構造ヲ基トシテ Eudryopteris, Stigmatopteris, Ctenitis, Lastrea, Glaphyropteris, Steiro-嚢堆ノ形狀、包膜ノ有無ニョレルモノデ決シテ自然的ノモ C. Christensen 氏 ノデハナイ從來幾多

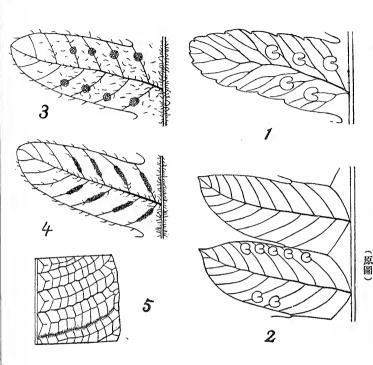
行 發 月 九

玆ニハ再錄ヲ省ク、 pteris, Cyclosorus, Leptogramma, Goniopteris, Meniscium ノ十亞屬ニ分ッタ是レ最モ自然的ノ分類法デアルト同 氏、信ズル所デアル其方法ハ甞テ大正元年十月發行ノ植物學雜誌第二十六卷第三百十號ニ抄譯シテ置イタカラ 兎ニ角をしだ屬ハのさのしぶ屬ト共ニ最モ尨大ナル一屬デアルカラ未ダ種々ノ問題ガ潜ン

デ居ルコトデアロウ次ニ屬名ノ變遷ヲ述ベル

Nephrodium ナル屬名ハー八二〇年ニ RioHBD 氏ガ建ラタモノデエングラー氏自然分科全書ニ於ラ DIELS 氏





氏ガ始ラ屬名ニ立テタモノデアッテNephrodiumAmman氏ガ作リシ名ニテー七六三年ニ ADANSON

ョリハ遙カニ古イ而シテ此レニ屬スベキ諸羊齒

Dieis 氏ノ用ヰタル Nephrodium 中ノモ

ナルヲ以テ Nephrodium ノ屬徵ハ即チ Dryopteris

デアル從來 Nephrodium ノ意味モ種々ニ用ヰラ

屬徴デアルガ其名稱ハ最舊ノ者ヲ採用シタ譯

レラ居ッテー前述ノをしだ屬ノ性質全部ヲ具フ

二HOOKER, BAKER 兩氏ノ如ク包膜ヲ有

jν

モノノミヲ含

Ŧ

二限ラレ ø jν Æ ノニ

脈ガ游離

jν æ

トミヲ

Æ 大

博士ノ日本植物名彙、

等諸氏ノ制限セル意味ノ不規則網狀脈ヲ具へ楯形包膜ヲ有スル狹義ノ Aspidium ト後ノ Nephrodium; Lastreaニ Swarrz 氏ガー八〇一年ニ建テタ Aspidium ト云フ屬ハ創立當時、甚ダ廣イ意味デアッテ レタ故ニをしだヲ一例ニ取レバ Nephrodium Eilix mas トモ モノヽ三通リガアル、此三ノ場合ノ狹義ノモノニ對立シテ脈 ノ、又三極メラ狹キ意味 Lastrea Filix mas トモ呼バレタコトガアリ又 ノ游離セルモノハ Lastrea ナル テ包膜ヲ有シ DIELS, CHRISTENSEN 特立 ノ風ガ設

入ルベキモノトヲ總テ包含シテ居ル無論今日デャ狹義ニ用ヰラレルノガ普通デアル試ニをしだノ學名ヲバ松村

月. 九 六 八〇六年ニ Dryopteris ト順ヲ追フテ變遷シテ居ルコトガ見ラレル、Francher, Savatier, Miquel, Christ 等諸氏ガ日本ノ 時代デアッテ圓形ノ囊堆ヲ有スルモノハ何レモ Polypodium トシ今日ノへご科ノモノマデモ入ッデ居ッタ、 Hemionitis, 林娜氏時代ニナレバ Polypodium Filix mus ト呼バレタモノデアル林娜氏ハー七五三年ニPolypodium 屬ヲ建テ 羊齒ヲ報告シタモノハ廣義ノ Aspidium ヲ用ヰタガ今日デハ殆ド此式ハ採ラナイコトニナッタ、尙以前ニ溯リ ガ其頃ハ羊齒ハ僅カ十五屬(Equisetum, Onoclea, Ophioglossum, Osmunda, Acrostichum, Ptèris, Blechnum, SWARTZ 氏ガ Synopsis Filicum ヲ書イタ時ハニ十八屬ドナリ一九〇六年ノ Chaistensien 氏ノ Index Lonchitis, Asplenium, Polypodium, Adiantum, Trichoman s, Marsilia, Pilularia, Isoetes)シカナカッタ 帝國植物名鑑、並ニ改訂植物名彙ニョッテ引イラ見ルト其屬名ガ Aspidium, Nephrodium,

發

Filicum

デハ百四十九屬ニ増加シテ 居ル是レハ 新羊歯ノ發見ト研究ノ精密ニナッタトニ歸因スルノデアル、頃

Filix ナル名稱ヲ與フルコトガ至當デアルト論ズル人ガアル今其說ヲ述ブレバ

日更ニ故キヲ温ネテをしだ属ニ

テ之レヲ用ヰタ、元來 Family Herbal ハ薬用植物書デアルト同時ニ純正植物學イ方面ニ於テモ亦權威アル 氏モ同ジ意味ニ用ヰテ居ル然ルニ Him 氏ハ Family Herbal (1755)ニ於テ Filix ハDryopteris 屬ノ提唱者 ADANSON 氏ハ Cystopteris ニ對スル林娜氏以後ノ最古ノ名稱デアルトシ又 LuDwid Male Fern 及と Female Fern ニ對シ モノ

Æ

アル

べ

シ

萬葉第十

卷ニハ左ノ數首ノ歌ガ

ァ

語原

此花

シア 形

Dryopteris 以前ノモノナル故須ラク之レヲ採ッテ以テをしだ屬ノ屬名トスベキダト云フノデアル然シ未ダ 云フノデナク二名法ニョリテ呼ンダモノト思ハレル然ラバ當然 Filix ガ屬名デアッテ而 Filix Foemina (Filix 、巨斗、Foemina 該書ニ於テハ Male Fern ヲ Filix Mas (Filix 必要ナル説明ト或物 テ其記事 ラ尊重 ースベ ニアッテハ圖解サヘモ キ書デア w 而 シ ハ Female 即チ雌ノ意)トシテアル是レ テ属ト x ハ Fern 即チ羊歯 Mas ハ Male加ヘラアル故其ノ命名ハ權威アルモ シ ノ記 載 7 才 v ١. モ 植 物 ŧ レ單二植! 即チ雄ノ意) Female Fern ヲ ノト看做サナケ 羅 J, 物ヲ羅丁名デ呼ンダ カモをしだ屬 其何 物 ナ ニー對ス ナ カ ラ ヲ ナ 知 ŀ jν 1

物 古 考 (承前)

ハ用ヰラレラ居ナイ

小 郎

永

シタ、香川景樹

ノすみれ

トノ説

ナ

ハつち

(すみれ科)

つぼすみ れ 都保須美禮 萬十 すみれ

歌ニ詠ンダすみれハ今云れんげさうデアル トリタテ、云フ程ノ題 ジデハナイガ前題ノ 此 ッ 花殊ニ美シクカ 10 * ŀ シテ兹ニ掲グ jν = ŀ

ンノサナガラ工匠ノモタル墨斗ニ似ッラ之レニフサハシキ歌サヘアレバ セ ンヤ デア N サレ 一似タレ サ バ古ノすみれい尚今ノすみれニシテれんげさうニ ノミ -バ ト トテ壺墨入又ハ墨入ト云ヒ出ダセリトノ説アリサハウラムルコトヤアル況シテャすみれ又つぼすみ バカリノ名花 ガ歌ニ漏レンヤウヤアル

ばリト

云

フ古名アリテ之レニフサ

カクテハ今云すみれヲイ

カニ

古 是

v

茅花拔く淺茅が原のつぼすみれ今盛りなり吾戀らくは 吹の 咲きたる野邊のつぼすみ れ此 春雨に盛り なりけり

植 物 古 名